

志賀高原プリンスホテル西館

Shiga Kogen Prince Hotel West Building
(長野県下高井郡山ノ内町)



外観



露天風呂

規模の面で欧州のスキー場に対抗できる日本国内唯一の存在。それは志賀高原であろう。その志賀高原にたくさんあるゲレンデの中で、私のお気に入りには焼額山である。快適で長い斜面が山頂からいくつも広がり、どこへ滑り下りても機動力のあるリフトもしくはゴンドラが揚重してくれる。焼額山はパラダイスだ。

今回紹介する風呂は、焼額山のベースにあるプリンスホテル西館にある大浴場である。プリンスホテルは西館の他に南館と東館があるが、長野方面から最も近いのがこの西館だ。

大浴場は1階のフロント横にある。脱衣室にはロッカーがなく、籠が置かれている。貴重品は客室もしくはフロントもしくはフロント近くにある貴重品ロッカーへ置いておくのが懸命であろう。また、タオル類は脱衣室には用意されていないので、客室から持っていく必要がある。

浴室は洗い場と露天風呂に分かれている。脱衣室と洗い場、露天風呂の間には前室があり、それぞれの空気が入り混じらないように配慮されている。風呂から出る際には、ここで体を拭くことになる。

洗い場は全13箇所。カランはサーモスタット自閉式混合栓だ。自閉式と言っても、一度ボタンを押せばかなり長い時間シャワーが出るので使い勝手は良い。しかもその水圧はかなり高め。それでも石でできた壁でそれぞれの洗い場が隔離されているので、シャワーの湯が飛び散ることを心配する必要はないであろう。洗い場にはシャンプーやボディーソープが完備されている。

大浴場には内湯がない。露天風呂があるのみである。露天風呂と言っても、屋根がかかっている所以完全な露天ではない。2方向の壁が開放されているだけである。寒いスキーシーズンの露天風呂に関しては、賛否両論があるかもしれない。温かい内湯がほしいという声は十分に理解できる。しかし、プリンスホテルはそのような軟弱な考え方にはくみしなかったようである。スキーリゾートに来る者、入浴時においてもスキー場の冷たい空気に

触れるべし。そのような思想が聞こえてきそうである。

実際に湯につかっているとだんだんと体がのぼせてくるが、頭はひんやりした空気に触れているので、長めの入浴が可能だ。湯温は快適そのもの。その日のゲレンデでの滑りを思い出しながら仲間と談笑をすれば、疲れが吹き飛び、のどが渇き、食欲がわいてくるであろう。

露天風呂の外を見やれば、雪の壁の向こうにゲレンデ端のネットが見える。止まることができないでネットを突き破ってくるスキーヤーがいるとすれば、そのままドボンと露天風呂内に着水することができるかもしれない。

ちなみに、本取材をしたのは4月上旬であったが、春の嵐の直後だったためか、ゲレンデではハイシーズン並みの雪質を味わうことができた。このままスキーシーズンが終わってしまうのが信じられないくらいだ。4月だからと言って侮るなかれ。志賀高原ではまだまだスキーが楽しめる。

志賀高原プリンスホテル西館には、スキーヤーに必要なものすべてが整っている。大浴場をはじめ、スキーロッカーはもちろん、ホテルを出ればすぐそこがリフト券売り場とリフト乗り場だ。そして、風呂好きのスキーヤーも十分に満足できることであろう。

- **名称**：志賀高原プリンスホテル西館
- **所在地**：長野県下高井郡山ノ内町志賀高原焼額山
- **電話**：0269-34-3111
- **営業時間**：要確認
- **定休日**：スキーシーズンは無休（他の季節は要確認）
- **入浴料**：宿泊者は無料、日帰り入浴はなし
- **サウナ**：なし
- **テレビ**：なし
- **取材日**：2012年4月7日（土）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部